

# 大阪大学東アジア拠点設立15周年 —近年の活動について—



海外交流

小溝 裕一\*, 張 希西\*\*

15th Anniversary of the East Asian Center for Academic Initiatives,  
Osaka University: Recent Activities

Key Words : East Asia, Study abroad, Student mobility, Virtual exchange

## 1. はじめに

大阪大学は、世界に開かれた大学としての役割を果たし、積極的にグローバル化を推進する一環として、海外拠点を設置し、教育・研究・交流連携の国際的なネットワークを強化してきた。その中で、東アジア拠点は、世界に4つある本学の海外拠点の一つとして、東アジア地域におけるグローバル事業の発展に貢献してきた。同地域の大学や研究機関との協力を深めるだけでなく、学生や研究者の交流を促進し、同窓生ネットワークの構築にも寄与することで、大阪大学の国際的なプレゼンスを高める重要な役割を担っている。

大阪大学東アジア拠点は、2010年2月に「上海教育研究センター」として設立されたが、中国全土はもとより、台湾、韓国、モンゴルなどを含むより広い地域の高等教育機関との連携や学生交流を推進するため、2014年4月に「東アジアセンター」に

名称変更し、さらに2017年4月から「東アジア拠点」と改名して活動を続けている<sup>1)</sup>。今年2025年で設立から15周年を迎えることとなったので、近年の活動内容について報告する。

## 2. コロナ禍での学術交流・学生交流活動

### 2.1 優秀な留学生の受入に対する取組

大阪大学では、2016年に西尾章治郎総長のもと「OUビジョン2021」が策定された。その中で、多様な知と人材が交差するオープンコミュニティの創出、すなわち多様な文化的背景をもつ人々との切磋琢磨を通じて教育研究活動を深化させることが謳われている。そのためには、世界中から優秀な人材、すなわち優れた研究者・学生をリクルートすることが極めて重要である。

しかし、2019年末から世界に広まった新型コロナウイルス感染症は、教育・研究の国際交流を含め、留学生リクルート活動に大きな影響を与えた。

従来、留学希望者への広報活動は主に日本学生支援機構(JASSO)や国立研究開発法人科学技術振興機構(JST)などが主催する留学フェアへの参加と個別大学へ出向いての留学説明会であったが、コロナ禍で直接海外に出かけられない状況下、いくつかの方策を講じた<sup>2)</sup>。

#### (1) オンライン留学説明会の実施

新型コロナウイルス禍の下、海外に渡航できず、現地における学生との交流や留学説明会が実施できない時期においても、新たな道を模索してきた。2020年2月より留学説明会の動画を現地語で作成し、中国、モンゴルなどの東アジア地域の学生向けにZOOMなどを活用して配信を開始した。さらに、2020年8月より理工文医の14分野の部局・部門と協力し、分野別留学説明会を英語で実施してきた。2020年春から2025年3月10日まで、合計226回



\* Yuichi KOMIZO

1950年2月生まれ  
京都大学工学部金属加工学科(1972年)  
元、大阪大学グローバル・イニシアティブ機構 特任教授 東アジア拠点長  
工学博士  
専門/溶接・接合  
TEL: 090-9879-7155  
E-mail: komizo.cgin@osaka-u.ac.jp



\*\* Xixi ZHANG

1987年7月生まれ  
大阪大学文学研究科文化表現論 博士後期課程(2020年)  
現在、大阪大学 学際大学院機構 超域イノベーション博士課程プログラム  
特任助教(常勤)  
博士(文学)  
専門/日本語学  
E-mail: sissizhang07027807@gmail.com

の留学説明会を開催・参加し、参加・視聴者数は合計 91,663 名に達している。

#### (2) バーチャル大学ツアーの開催

2020 年度のオンライン留学説明会の開催経験を活用し、本学のみならず、日本の大学の横連携を強化することも視野に入れ、日本留学の優位性と日本の大学の魅力を世界にアピールすることを目指し、「多様な文化・言語圏からの留学生リクルート：バーチャル大学ツアー」を企画・提案し、文科省・国際化促進フォーラムプロジェクトに採択された。これにより、2021 年 7 月から大阪大学グローバルビレッジ津雲台のバーチャルツアー動画、バーチャルキャンパスツアー動画、学食ツアー動画、ラボツアー動画、海外留学生への応援メッセージ“Waiting for You in Japan”など、新たな留学情報コンテンツを作成するとともに、2022 年 3 月に第 1 回バーチャル大学ツアーを開催（全世界から 5,254 名参加）した。2023 年 2 月に第 2 回を開催（全世界から 1,628 名参加）、2024 年 3 月に第 3 回を開催（全世界から 2,871 名参加）、さらに 2025 年 3 月 6 日～7 日に第 4 回のバーチャル大学ツアーを開催した（全世界から 2,851 名参加）。これらの取組みと成果を、学会、シンポジウムによる学内外発信<sup>3)</sup>とともに、モンゴル・中国・韓国・台湾の現地大学へ発信している。

#### (3) SNS を活用した多言語留学情報の発信

これまで大阪大学のホームページは日本語と英語で作成されていた。これに対し、留学希望者の多い中国語・韓国語でホームページを構築するとともに、留学説明会で留学希望者や保護者からよく聞かれる大学概要、長期留学・短期留学プログラム、英語プログラム、学生支援体制などの留学情報を網羅的にまとめ、中国語簡体字・中国語繁体字・韓国語で「留学情報」ページを制作した。さらに本学トップページの留学生用入試情報（Study at OU）へ展開した。

また、阪大 YouTube 公式チャンネル、阪大 YouKu（中国でよく使われる動画アプリ）公式チャンネル、阪大 WeiBo 公式チャンネルにおける本学留学情報コンテンツを作成し、配信している。

#### (4) 日本語日本文化教育センターの遠隔授業の海外配信

本学の強みの 1 つである日本学（日本語、日本文化）を活用し、修学支援、日本でのキャリアパス

を見据えた日本語教育、留学生支援等の充実により、海外から留学しやすい環境の整備を図る目的で、日本語日本文化教育センターの実施する授業「日本思想文化研究基礎」を 2020 年 4 月より海外協定校 15 大学（中国 12 大学、タイ 3 大学）向けに継続配信している。2025 年 3 月までに、延べ 2,632 名の海外大学の学生がオンラインで受講した。そのうち、交換留学生として短期留学プログラムに参加した学生や、正規生として本学に進学した学生もいる。より系統的に追跡し、実施成果を検証する必要があるが、このような取組は学生の還流に寄与していると言える。

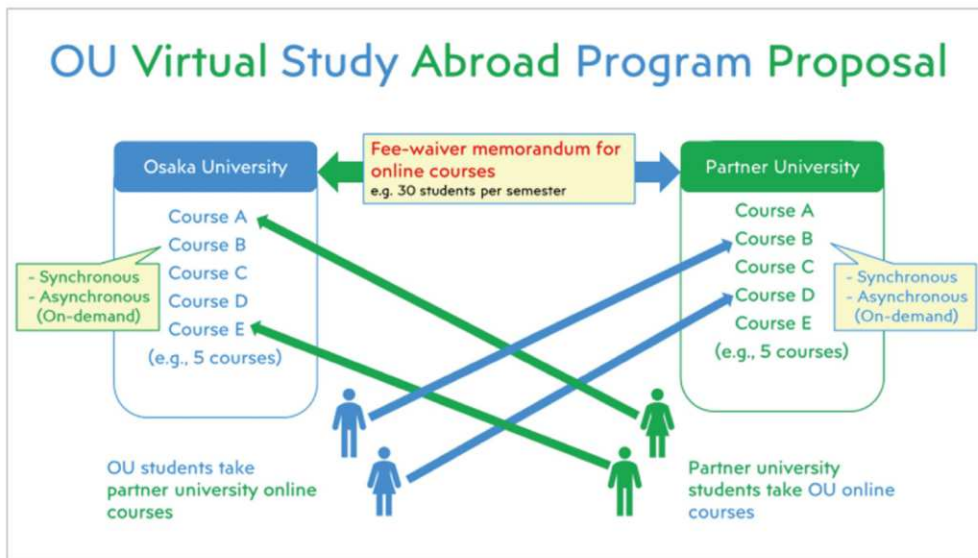
## 2.2 本学学生の海外留学促進と本学における国際共修の推進

### (1) バーチャル留学プログラム

学生の国際性を涵養するためには海外留学経験が欠かせないが、コロナ禍で物理的移動が制限され、本学学生の海外留学ができなくなった。そのため、新たにバーチャル留学プログラムを立ち上げた。これは、協定校が配信するオンライン授業を本学学生が受講し、逆に、本学が配信する授業を協定校学生が受講するという双方向のバーチャルプログラムである。このプログラムは、物理的な距離に関係なく、本学学生が海外の大学の学生と共に授業を受け、異文化コミュニケーションを行い、共同で学び合う国際教育環境の構築に寄与するものであり、海外に渡航しなくても「お試し留学」として海外大学の授業を履修し、グローバルな視野を広げる一助となったと言える。

2021 年度より上海交通大学、東南大学、大連理工大学と北京大学にアプローチし、バーチャル留学プログラムの実施を実現した。現在台湾成功大学、韓国延世大学、ハンブルク大学（ドイツ）とアイルランガ大学（インドネシア）を含め、8 大学と連携している。2021 年度から 2024 年度秋冬学期まで受講生 596 名（派遣 113 名、受入 483 名）となっている。

また、海外連携大学との既存のコースの提供にとどまらず、2023 年度からは海外大学と協働でデザインし、実施する「協働コース」を新たに取り入れた。2024 年度末までに、上海交通大学と共同で「科学と研究の効果的なコミュニケーション」、および「クリエイティブ・メディア・プロジェクト」、さらに



(図1 バーチャル留学プログラムの提案)

上海交通大学とハワイ大学をはじめとする6大学が協働で開講した「アジア太平洋地域の気候変動—科学と解決策」の3科目を実施してきた。

(2) 学生アンバサダープログラム

学生アンバサダーとは、大学が実施するイベントのサポートを行ったり、来訪する海外大学や入学希望者に向けて情報を提供したりして、積極的に大阪大学の魅力を発信することに参画する学生のことである。参加学生にリーダーシップやコミュニケーションスキルを養う機会を提供し、学生自身の成長を促すとともに、グローバル人材の育成に寄与することを目的に、2024年にプログラムがスタートした。2024年度には、10名の学生（留学生6名、日本人学生4名）がグローバル学生アンバサダーに選ばれ、研修を受けた後、多くのイベントで大いに活躍した。

3. アフターコロナでの学術交流・学生交流活動

コロナ禍においても、本学は積極的にオンラインでの活動を展開し、海外大学との交流を継続してきた。これらの取り組みにより、物理的な移動が制限される中でも関係を維持し、相互理解を深めることができた。その結果、コロナ禍が終息した直後には、従来の対面交流を迅速に再開することが可能となった。オンラインを活用した継続的な交流が、国際的なつながりを維持し、円滑な対面交流の再開を後押ししたのである。

3.1 一流重点大学での現地留学説明会の開催と交流ネットワークの構築

本学の留学生の半数以上を占める中国出身の留学生は人数だけではなく、全体の留学生の質に大きな影響を与える。そこで、中国で世界最先端レベルの一流大学と位置付けられる985・211プロジェクト重点大学、双一流大学からの申請者の割合を増やすため、一流重点大学別留学説明会の開催をはじめ、ネットとメディアの活用により、戦略的な広報活動の強化を図ってきた。これまで蓄積した中国の大学との良好な関係、大阪大学上海同窓会や北京同窓会などの卒業生のネットワークを活用し、上海交通大学、同濟大学、上海外国語大学、東南大学、北京科技大学、西安交通大学など中国の一流重点大学で個別留学説明会を開催し、大阪大学の教員による学術講演も行った。この独自の大学広報活動の実績としては、中国の重点大学からの申請者が確実に増えていることが龍門窓口（中国から大学院及び研究生入学志願者の申請支援窓口、後に「アドミッション支援デスク（AAD）」に改名され、全世界に展開した）の申請で確認されている。

さらに、中国に次いで交流の活発な韓国、台湾とも連携を深めるため、一流大学での現地留学説明会への参加を再開した。2023年よりこれまで訪問し、国際交流や学生交流に関して意見を交換した高等教育機関は次のとおりである。

- ・**台湾**：国立台湾大学、国立台湾師範大学、国立成功大学、国立清華大学、国立陽明交通大学、国立政治大学、中央研究院
- ・**韓国**：ソウル国立大学、高麗大学、延世大学、釜山国立大学、漢陽大学、漢陽大学 ERICA、韓国科学技術院 (KAIST)、忠南国立大学、昌原国立大学、慶尚国立大学、全南国立大学、中央大学、慶熙大学
- ・**中国**：上海交通大学、同濟大学、大連理工大学、山東大学、南京大學、東南大学、中国科学技術大学、北京科技大学、香港大学、香港科技大学、香港中文大学、上海光学精密機械研究所、中国科学院深圳先進技術研究院
- ・**モンゴル**：モンゴル国立大学、モンゴル科学技術大学、モンゴル医科大学、新モンゴル高専

東アジア地域の海外大学と研究機関への訪問のみならず、大韓民国駐大阪総領事館、中国駐大阪総領事館、中国駐日本大使館、京都韓国教育院、大阪韓国教育院、台北駐大阪経済文化弁事処、国際交流基金、JASSO など、日本国内の機関とも良好な関係を保ち、ネットワークを築いている。

### 3.2 学生交流 (Outbound) の促進

留学生の受け入れが増加している一方で、在学生の海外留学が伸び悩んでいる。その背景には、経済的負担や言語障壁、就職活動への影響などが挙げられる。このアンバランスは、日本の大学の国際競争力やグローバル人材の育成に影響を及ぼす可能性がある。大学の国際化を進めるためには、留学生の受け入れと在学生の海外派遣の両輪をバランスよく推進することが不可欠である。その改善策として、超短期体験型交流プログラムやバーチャル留学プログラムが「お試し留学」施策として活用されている。東アジア拠点は本学学生の海外大学への訪問と研修、超短期交流プログラムの参加を積極的に進めた。

2023年9月に、本学学生22名が大連理工大学でのプログラムに参加した。続く2024年には、8月に大連理工大学でのプログラムに本学学生7名が参加し、9月には成都訪中団に本学学生9名が参加した。さらに、9月に上海と大阪の友好都市提携50周年を記念した学生訪中団が上海交通大学主催で実施され、本学学生24名が参加した。また、

2025年には、2月に浙江大学のSpring Programに本学学生2名が、3月には四川師範大学のSpring Programに本学学生5名がそれぞれ参加した。

### 3.3 上海交通大学との学術交流と学生交流の促進

本学のグローバル・ナレッジ・パートナー GKP校の一つである上海交通大学とは、1995年から毎年学術交流セミナーを開催しており、2024年で26回を数える。分科会の専門分野は、材料学、燃焼工学、物理学、化学、船舶工学、スマートシティなど多岐にわたり、研究者と学生の相互派遣や論文の共著など、多様な形式で学術交流を深めた。2021年からはそれとは別の枠組みで、学生交流フォーラムをオンラインで3回開催した。両校の学生は動画、プレゼンテーション、パネルディスカッションなどの形で、「コロナ禍での学生生活」「大学での一日」「気候変動問題への取組」「自分の研究がどのように世の中に役立つか」などのようなテーマで話し合った。

### 3.4 同窓生交流の促進と海外同窓会

東アジア拠点は設立されて以来、特に近年、同地域の学生や研究者の交流を促進し、同窓生ネットワークの構築に貢献してきた。

2019年10月に北京同窓会を設立し、その後、各地で同窓生交流会を開催した。2023年2月には台北で、同年7月には大連で、8月には釜山で、そして10月にはウランバートルで同窓生交流会を実施した。また、2024年3月と2025年3月には上海で同窓生交流会を開催した。これらのイベントを通じて、同窓生たちの交流と絆が深まっている。

### 3.5 Osaka University Global Alumni Fellow

「Osaka University Global Alumni Fellow (2025年4月より「The University of Osaka Global Alumni Fellow」と改名)」は、教育・研究の国際的なネットワークづくりの一環として、本学の卒業生・修了生や元教職員で、海外の大学・研究機関等で活躍される方々を対象に授与している称号である。現在、「Osaka University Global Alumni Fellow」は66名おり、そのうち東アジア地域からは27名(中国17名、韓国10名)が選ばれている。

近年「Osaka University Global Alumni Fellow」に選ばれた卒業生の先生方：



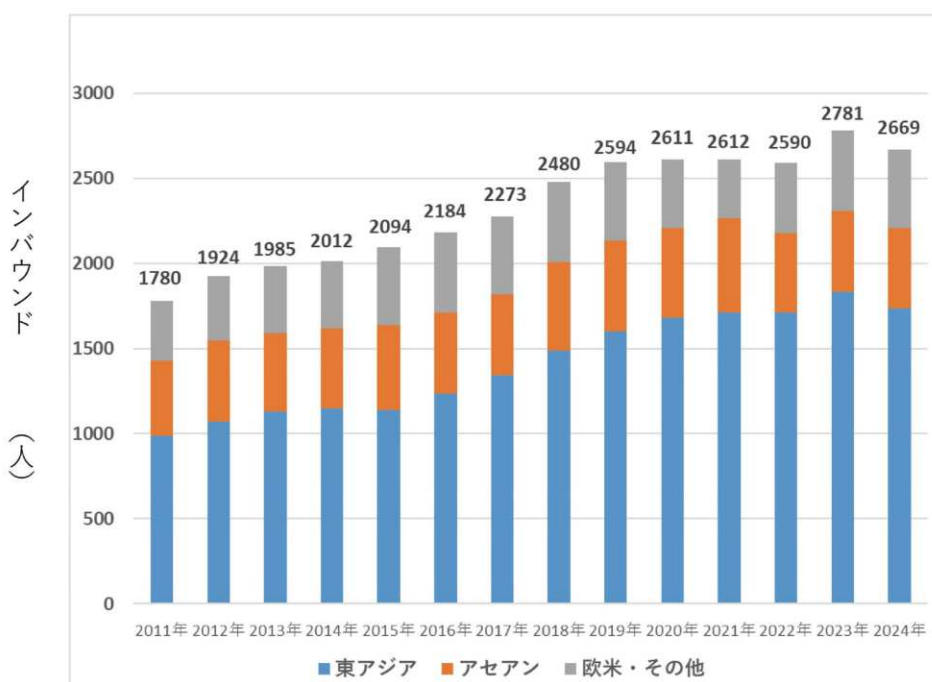
(図2 大阪大学上海同窓生交流会)

- ・孫 成志 Sun Chengzhi 大連理工大学教授  
(2023/2/6)
- ・張 新房 Zhang Xinfang 北京科技大学教授  
(2023/2/8)  
(2024年秋より内モンゴル科技大学の副学長に  
就任した)
- ・杜 軍 Du Jun 北京大学教授 (2023/2/8)
- ・田 榮浩 Jeon, Young Ho 高麗大学校教授  
(2023/3/2)

- ・李 長久 Chang-Jiu Li 西安交通大学教授  
(2023/3/20)

#### 4. おわりに

2024年5月1日現在の大阪大学の留学生の総数は2,669人であり、15年前の2倍弱となっている。地域別から見ると、アジア出身の留学生が圧倒的に多く、本学の留学生全体の82%を占めている(図3参照)。また、出身国・地域から見ると、トップ



(図3 大阪大学の外国人留学生数推移)



(図4 本学学生海外留学者数推移)

5は中国 (1,479人)、韓国 (167人)、インドネシア (108人)、タイ (91人)、台湾 (69人) の順となっており、特に中国出身の留学生は本学留学生の半数以上を占めている。これに対し、本学から海外の大学に留学する学生は、学部 639人、大学院 623人であり、コロナ禍による大幅減少から未だ回復していない (図4)。さらに海外留学する学部生の大半は外国語学部出身の学生である。日本政府は2033年までに海外派遣する日本人学生を50万人、外国人留学生の受け入れを40万人とする計画を発表した。伸び悩んでいる日本からの留学生の派遣について、改善策が求められる。

#### 参考文献：

1) 小溝裕一 (2019) 「大阪大学東アジア拠点の活

動について」『生産と技術』第71巻第1号。Pp. 131-132

- 2) 張希西、李明、エンクトゥルアリウナ、石川真由美、小溝裕一 (2021) 「コロナ新時代における国際交流活動の展開—大阪大学におけるオンライン留学生リクルートの実践と課題—」『大阪大学高等教育研究』第9号。Pp. 41-49
- 3) 張希西、エンクトゥルアリウナ、李明、甲斐歳恵、久田均、アンカウィジャヤクレメン (2023) 「ポストコロナ時代における横連携強化型国際交流活動の展開—多様な文化・言語圏からの留学生リクルートを促進する大阪大学バーチャル大学ツアーの実施—」『大阪大学高等教育研究』第11号。Pp. 29-35